



目 次

NPO 活動報告	
大阪府教育委員会委託事業『ピアにほんご』	p2
おおさかこども多文化センター『第2回総会』	p3
多文化な子ども@大阪のニュース	
『進路セミナー』『高校生交流会 2012』	p3
海外にほんご事情『ベトナム・前編』	p4
地域の子ども支援教室から⑤	
『ハロハロ SQUARE』(吹田市)	p5
Air Mail メキシコ便り⑤	
『国際セルバンティーノフェスティバル、そして死者の日』	p6
イベント情報	p7~8

おおさかこども多文化センター 活動紹介



大阪府教育委員会から『ピアにほんご』受託しています!

おおさかこども多文化センターは、今年度(2012年度)も、大阪府教育委員会から、大阪府立高校に学ぶ日本語指導の必要な生徒への教育支援事業である大阪府日本語教育支援センター(愛称ピアにほんご)運営を受託することになりました。

府教委の調査では、府内における日本語指導の必要な小・中・高校生の在籍数は増加傾向にあり、母語も多言語化していて29言語です。2011年9月1日時点で2,234人、その内、高校生は53校299人となっています。このピアにほんご事業は、2005年度から始まり、今年度で8年目になります。委託先は2度変わり、昨年度から当NPOが受託をしています。

♪♪ ピアにほんごの事業は、主に次の4つです ♪♪

1. 教育サポーターの派遣

生徒への学習・学校生活支援として:

- a. 授業での学習通訳
- b. 母語での教科指導のサポート
- c. 母語や、その国の文化を教える
- d. 日本語学習のサポート
- e. 日本語教育の指導
- f. 進学に向けた学習のサポート
- g. 学校生活の相談のサポート

& 日本語を十分理解できない保護者に対して:

懇談会、説明会、手続き時の通訳を派遣

支援言語内訳(2011年度実績)

中国語、韓国・朝鮮語、フィリピノ語、タイ語、 ポルトガル語、ベトナム語、シンハラ語、ダリ語、 ペルシャ語、ネパール語、スペイン語 の11言語

2. 高校生活オリエンテーションの実施

府立高校への合格が決定した帰国・渡日新入生及び保護者を対象に、高校生活に必要な情報(学校のルールや支援制度、学費、進路等)を提供します。毎年3月 最終土曜日に開催。



3. 相談窓口の設置

専門性のある支援員による、日本語指導担当教員や教育サポーターからの相談対応や、日本語教育の教材紹介・指導法のアドバイス、日本語指導や通訳のできる人材の紹介等を行なっています。またWEBページによる情報提供もしています。 http://pianihongo.org/

4. 教育サポーター交流会の実施

サポーター同士の情報交換、課題についての討議を通じて、サポーター自身のスキルアップをはかります。

教育サポーターとは… 帰国・渡日の生徒の母語・母文化を 理解する人、日本語教育を生徒および学校に指導できる 人、かつ府立高校の教育活動に携わるにふさわしい熱意と 識見を有する人たちです。生徒と教員のコミュニケーショ ンを助け、生徒の精神面での支えとなるサポーターの存在 は、孤立しがちな彼らの高校生活への不安を取り除き、学 習意欲を高め、自己実現に役立っていると高い評価をもら っています!



今年度も、引き続き村上コーディネーター、 安田相談員、梨木相談員の3人で、生徒、教育 サポーター、学校と顔の見える支援をすることを 心がけ事業を担当いたします。



おおさかこども多文化センター 活動報告

第2回総会 開かれる

おおさかこども多文化センターの2012年度総会が、5月25日、事務所のある高砂堂ビル内 ヒューライツ大阪セミナー室において、16名の出席(委任状46名)のもと開催されました。村上理事長の挨拶ののち、事業報告・決算報告、理事・監事の選任(再任)、活動計画・予算案の順に報告・提案が行われ、すべて承認を得ました。また、NPO 法の改正にともなう定款の一部変更案についても説明がなされ、承認されました。

2012年度の活動については、引き続き大阪府教育委員会から受託した「ピアにほんご」の運営(左ページ参照)が中心事業となりますが、今年度は同時に、地域に暮らす外国にルーツをもつ子どもや保護者を直接の対象とした事業もいくつか予定されています。例えば、キリン福祉財団助成事業の「日本語を母語としない親子のための社会見学」や、子どもゆめ基金助成による「多文化絵本ひろば」などにより、より幅広い年齢層の子どもを対象とした活動を展開したいと考えています。また、NPO 設立 1 周年を記念したフォーラム等を通じ、多文化な子どもたちの存在と現状について、さらに積極的に社会に発信していきます。

なおこの4月から、事務局体制のいっそうの充実をはかるべく事務局長を置くことが報告され、 橋本事務局長の就任が紹介されました。会員の皆さまとともに よりよい活動をつくっていきたいと 思っていますので、今年度もご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



多文化な子ども@大阪 のニュース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『進路セミナー』

府立高校約10校40名あまりの高校生と約20名の保護者、付き添い教員を迎えて4月21日、 府立桃谷高校で府立外教主催による進路セミナーが行われました。まず初めは、成美高校米 谷さんによる高校卒業後の進路に関する話で、希望の進路を実現するためにやるべきことは 何か、大学の入学試験の様々な方法や、入学金の支払い時期についての説明、先輩が過去 に進学した大学の紹介、在留資格との関係など、ぜひ知っておいてほしい大事な話が盛りだくさんの内容でした。



次は、大阪府教育委員会の岩崎さんによる進学にかかるお金に関する話で、奨学金は借りるものであるから、返済を考えて借り入れ計画をたてる必要があるものの、奨学金が必要となる可能性があるならまず申し込むことが大切と強調されていました。自分の希望する進路実現のために、必要なお金の額を早く知っておいてほしいという主旨のお話でした。最後に3名の卒業生から高校時代の体験、今の大学を選んだいきさつなど、具体的な話がありました。黒板を駆使して熱弁を振るう姿に、現役の生徒も先生も聴き入っていました。

休憩なしの連続2時間でしたが、終始熱心に聴く生徒たちの姿が印象的でした。

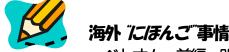
(H•H)

多文化共生の集い『新入生歓迎!高校生交流会2012』



5月26日、府立外教主催で、府立桃谷高校において盛大に高校生交流会が行われました。今年も多くの外国にルーツを持つ生徒や、これらの生徒に関心、興味を持ち交流したいという日本人生徒も加え 20 校から159名の生徒と関係者85名が参加しましたが、多文化多言語化という、ここ数年の傾向は変わらないようです。学校紹介に続く参加者紹介(参加者の多

い学校は1年生のみ)を兼ねた各校からの出し物は楽器演奏や民族舞踊などで、会場はエスニックな雰囲気に包まれ、発表が終わるごとに盛大な拍手が送られていました。そして次に行われた言語別交流で、それぞれの国の先輩から就職や大学進学の経験談を聞いたり、ゲームで遊んだりして交流を深めました。長吉高校のダンス及び、フィリピンから短期交流で来た日本にルーツをもつ小学生から大学生の集団「あけぼの」によるパフォーマンスとメッセージを聞いた後、全員で記念撮影をして終わりました。 (Y.H)



~ベトナム・前編 明るく人なつこい学習者たち~

(日本語教師 岡田勝美)

ベトナムで日本語を教えていて真っ先に感じるのは、学生たちの明るさと人なつこさだ。もともと日本が好きで日本語を勉強していることもあるが、そのことを差し引いても変わらない。

ベトナムでは至る所でオバサンがストリート茶店を開いている。朝、センターに向かう手前の茶店で学生たちが茶をしながらたむろしている。その前を通りかかると必ず「先生お茶を飲みましょう」と呼び止める。また昼休みになると「先生いっしょに昼ご飯を食べに行きましょう」と声をかけてくる。教え始めてまだ間がなく、名前もよく覚えていないうちからだ。しかもそうしたケースでこちらに金を払わせることは決してしない。初めはどうしても馴染めなくて困惑する。「日本では反対です、私が払います」と言ってもきかない。「ベトナムではこうです」と譲らない。



少し親しくなってくると授業が終わってからプライベートの時間に「犬肉を食べに行きましょう」と誘ってくる。ベトナム人は犬肉が好きだ。みんなで飲んだり食べたりするときはたいてい犬肉か鍋だ。誘われる日本人教師も複数の時が多いので、教師同士で打ち合わせ「なんとか1回ごとに私たちが払うルールにもっていきましょう」と相談し学生たちを説得する。「ここはベトナムなのでみなさんのルールに従います。でも、みなさんと私たちの世界は日本語の世界なので日本のルールにも従ってもらいます。きょうは日本のルールです」と。そして

犬肉店までの移動は必ず学生のバイクだ。飲み会が終わった後も必ず学生がバイクで家まで送ってくれる。「タクシーで帰るから」と言ってもだめだ。さすがにある程度の危険は意識するのだろう、1人でなく2人で送ってくれる。しかもその「担当者」は事前に相談して決めてあるのだ。実に念が入っている。

また、学生からお酒をもらうこともある。教師室で教材を作っているところへ「先生、これうちで造ったお酒です」と持ってきてくれる。しかもそれは前の日に担当の教師が休み、急きょ臨時に1コマだけ入ったクラスだ。授業中私がたまたま「お酒が大好きです」といったところ、ある学生から「ベトナムのお酒は好きですか」と聞かれた。「はい、大好きです」と答えたが、まさか次の日にわざわざ持ってきてくれるとは・・・・。ベトナムではたいていの家で自家製の酒を造る。原料は米で40度前後の強い蒸留酒だ。初めはきついうえに飲みにくいが、慣れてくると実にうまい。(この家の酒はどんなテーストだろうか?)と楽しみこのうえない。休み時間にそのクラスを訪れて礼を言うと「おいしかったですか?」と聞かれる。「すごくおいしいです」と答えると、くれた本人だけでなくクラス中が大喜びしている。実に愛すべき学生たちだ。

日本語のニーズとその背景 [日本企業の進出]・

これまで日本企業が海外の生産拠点としていた中国で給与水準が上がり、またさまざまな摩擦も 生じてきているため、他のアジア諸国に拠点を移す動きが最近盛んになっている。その受け皿の ひとつがベトナムだ。今ではハノイとホーチミンの郊外に日本の商社が開発した広大な工業団地が 出現、大小の日本企業が工場を建設している。ベトナムに進出した企業は、社内で日本人スタッフとのコ ミュニケーションを円滑にするため、従業員に日本語のスキルを求める。そのために日本語を学習する ベトナム人が増えている。また同時に、日本に対する信頼度が高いベトナムでは日本企業で働きたいと 希望するベトナム人は多い。その両方のニーズからベトナムでの日本語学習熱は非常に高いのだ。

(次ページ下に続く→)

3女化な子ども あつまれ / ~地域の子ども支援教室から~ ⑤

『ハロハロSQUARE』 (吹田市)

「ハロハロ SQUARE」は外国にルーツを持つ中学生が対象の日本語学習・教科学習支援を目的とした放課後教 室です。吹田市国際交流協会と大阪大学グローバルコラボレーションセンターの連携事業として、毎週金曜日の 18:30~20:30 に阪急千里線山田駅前の夢つながり未来館で活動を行っています。



大阪大学の学生ボランティアたちと一緒に学習

最初に私たちがこの教室を作った経緯を書きたいと思います。吹田市内で はこれまで外国にルーツを持つ子どものサポートを行う放課後教室は少なく、 学校だけで十分な支援をするのも難しい状況でした。渡日直後の日本語初期 指導はもちろんのこと、生活言語ができても学習言語が十分ではない中学生 を対象にしたサポート環境の整備が急務とされてきました。そのため2011年 10月、外国にルーツを持つ子どもたちが安心して学び、活動できる居場所を

作ろうと、この教室がスタートしました。「ハロハロ」はフィリピン語で「ごちゃまぜ」

という意味を持ちます。私たちは「さまざまなルーツをもつ子どもたちや、世 代の違うボランティアが共に楽しく学べる場になってほしい」という思いを込 めて「ハロハロSQUARE」と名付けました。なお状況に応じて、小学生や高 校生の受け入れも行っています。

教室に通う子どもたちはそれぞれが設定した課題に取り組みながら、時 には大学生を中心としたボランティアとゲームを交えて、リラックスした様子 でわいわいおしゃべりをしています。そんな楽しそうな姿を見ながらも、私た ちは、子どもたちの進路選択を視野に入れ、学力の向上を目指す場の在り 方を考えなければならず、試行錯誤する日々が続いています。



勉強が終わって、みんなでトランプ

「ハロハロSQUARE」はまだまだ新しい教室です。今後もボランティアのみなさんと協力し、学校現場や地域社 会、他の支援団体の方々からより多くのことを学びながら活動を進めていきたい。そして何よりも子どもに寄り添い ながら根気強く支援を続けていきたいと思っています。外国にルーツを持つ子どもたちが日本で暮らしていく力を つけるために、そして彼らが社会の中で貴重な人材として活躍できるように、これからも吹田で活動を続けていき ます。 ((財)吹田市国際交流協会 事務局 菅田 陽平、林 詩)

連絡先: Tel: 06-6835-1192 Fax: 06-6835-6420

E-mail: sifa@mail.infomart.or.jp URL: http://www.kaigisho.com/sifa/

(→前ページより続き)



国 名	日本語学習者数		日本への 留学生数	日本への技 能研修生数	日本語能力試 験受験者数	
	総数	(うち一般)	(うち学校)中~だ			
ベトナム	3 44,272	①25,510	③ 18,762	12,873	①4,180	23,250
インドネシア	①716,353	3 9,918	①706,435	31,791	22,400	31,632
タイ	2 78,802	210,915	② 67,887	22,203	3 870	15,315

インドネシアとタイでは中学校段階から日本語教育を行っている。これに対してベトナムの中等教育での日 本語授業はまだ始まったばかりでごくわずかだ。 この中高生の学習者を除くと、一般社会人の学習者数・日 本への留学生数・日本への技能研修生数のいずれも東南アジアで1位だ。日本との関係が深いインドネシア、 タイ両国を上回っている。



海外からのたよりをお届けします~

メキシコ便り(5)「国際セルバンティー/フェスティバル、そして死者の日」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

ホンジュラスから帰ってすぐ、8月にゲットしておいた3枚のチケットを持ってグアナファトの国際セルバンティーノフェスティバルに行きました。10月3日から21日まで、27ヶ国、約2400人の出演者で開かれたこの催しにはメキシコ国内はもとより世界各地から大勢の人が集まりました。テアトロフアレスというすばらしいメイン

会場をはじめとして17ヶ所の会場でコンサート、ダンス、芝居が、また、大学や美術館、博物館では映画や写真展、絵画展、モダンアートの展示など、さまざまな催しがあり、街の広場では一晩中若者のロックコンサートやアフリカンダンス、大道芸などが楽しめました。このように大掛かりな、市をあげての催しですが、コンサート会場は劇場ばかりではもちろんなく、大きな広場の特設会場だったり、農場の建物の一角だったりと、いろいろ工夫がこらされていました。それにつけてもこんなに多くの会場を用意できるというのも、建物の中にはパティオと呼ばれる中庭があったり、街中にプラサといわれる噴水のある広場があったりと、いたるところに余裕の空間がたくさんあるからだと、狭いごちゃごちゃした大阪の街を思い出しながら、うらやましくなりました。



各プラサをはしごしながらアフリカンダンス、キューバの楽団、アルゼンチンタンゴ、メキシコのジャズ、コンテンポラリーダンスなどを見ましたが、それぞれにとてもおもしろかったです。その中でも、特にアルゼンチンタンゴは日本で聞いていたものとはまったく違い、とても興味深い音楽になっていました。シンセサイザーを中心にギター、ドラム、ピアノ、チェロ、胡弓、そしてバンドネオンが即興的に音楽を作っていくというもので、最初は変わった楽器の編成だなと思っただけでしたが、聞いているうちにその躍動感あふれるスリリングな音作りに引き込まれてしまいました。

音楽三昧の4日間を過ごしたグアナファトから帰った次の日からさっそく始まった学校でしたが、11月1、2日は休み。この日は死者の日といって日本のお盆のようなもので、死んだ者たちが帰ってくる日なのです。メキシコ古来の伝統行事にキリスト教の行事ハロウィーンがドッキングしたようなものです。1週間くらい前から



街中にはきれいに着飾った骸骨人形が現れ、お菓子も骸骨、パンも骸骨、家々のドアやベランダには骸骨がかざられ、街の広場には骸骨のモニュメントと、街中が骸骨だらけになります。しかし、この骸骨、日本のようにおどろおどろしいものとはまったく違い、とてもユーモラスで、エレガントなのです。1日の夜は子どもの霊?が帰ってくる日、みんなお墓をきれいに掃除して、花やお菓子で飾り、一晩中墓場でフィエスタ(宴会)をやります。子どもたちはかぼちゃや骸骨の仮装をして、手にかぼちゃをかたちどったコップのようなものを持ち、家々を回ったり、街行く人々の間をちょこまかと行き来しながらお金やお菓子をその中に入れてもらいます。多くの露店が軒を連ね、オールナイトで大騒ぎです。

日本では死は恐れられ、骸骨は忌み嫌われますが、ここでは死は恐れるもの

でも悲しむものでもありません。そして、死者の象徴である骸骨は友達のようなものなのです。死者の日は子どもたちにとっては楽しい楽しいお祭りで、待ち遠しくて仕方のない日なのです。このよう

にメキシコでは死に対する考え方、感じ方が日本とまったく違うことに驚きつつ、死を祭り やビジネスに変えてしまうメキシコ人のしたたかさに感心してしまいました。





イベント情報 ~おおさかこども多文化センター、および関係団体主催のイベントです~

▼『帰国・渡日生徒のための進路支援説明会』(大阪府教育委員会主催) 府立高校に在籍する帰国・渡日生徒と教職員対象。自分のすすむ道を考えるための

ひとつの選択肢でもある大学の情報など、進路に関する適切な情報を多言語で提供 します。1、2年生でも参加可能です。

日 時 : 6月16日(土) 午後1時~午後5時

会 場 : 府立桃谷高等学校(大阪市生野区勝山南3-1-4)

JR 大阪環状線 桃谷駅東南 800m

参加大学 : 桃山学院大学、立命館大学、プール学院大学、大阪女学院大学(予定)

▼ 『第 11 回 Wai Wai! トーク part 1』(大阪府立学校在日外国人教育研究会主催)

府立高校に在籍する外国にルーツを持つ2,3年生の母語によるスピーチ大会。

日 時 : 6月30日(土) 午後1時~午後4時半

会 場 : 府立住吉高等学校 (大阪市阿倍野区北畠2丁目4-1)

阪堺上町線 北畠駅 200m

見学希望は事前に府立外教(Mail: furitsugaikyo@nifty.com)に申し込む。

▼ 日本語を母語としない親子のみなさんへ… (キリン福祉財団助成事業)

『新聞ができるところを親子で見学しましょう!』

新聞社ってどんなところ? どんな人が働いているの? どうやって新聞が作られるの?—— 日本語教師も同行し、やさしい日本語で解説をフォローします。必要な方には、母語の通訳もつき

ます。日本語を母語としないお知り合いのご家族に、ぜひ声をかけてください!

日 時 : 7月24日(火) 午後1時20分~午後3時20分

会 場 : 朝日新聞 大阪本社(大阪市北区中之島3丁目)

地下鉄四つ橋線肥後橋駅徒歩3分、京阪中之島線渡辺橋駅すぐ、

JR 大阪駅徒歩15分、JR 北新地駅徒歩10分

対象者: 日本語を母語としない親子(小学3年生以上) 12組

参加費 : 無料 ★通訳あり

問い合せ・申し込み : おおさかこども多文化センター(次ページ参照) 橋本・安田・村上まで

▼ 絵本をなかだちに、身近な多文化を楽しみませんか? (子どもゆめ基金助成事業)

『えほんのひろば

~いろんな おはなし、いろんなくにの ことば、いろんな ともだち!』(仮称) 日本の絵本とともに外国語絵本もたくさん用意。日本の子どもだけでなく、外国から来た親子にも 母語で自由に絵本を楽しんでもらえます。外国ルーツの子どもたち・保護者等による多言語での 読み聞かせや、おはなしワークショップもあります。 (詳細は次号でお知らせします♪)

日 時 : 9月8日(土)、9日(日) 午前11 時~午後4時

会 場 : 大阪市立中央図書館(地下鉄西長堀駅すぐ)

参加費 : 無料

問い合せ : おおさかこども多文化センター(次ページ参照)まで





NPO設立1周年記念フォーラム

聞いてください!私の「こころ」を

一 外国から来たこどもたち 一

大阪には、いろんな国から来たこどもたちが育っています。

そんなこどもたちの「今」を知り、みんなで「これから」について考えてみませんか?

1部 こどもたちの声

★外国から来て、大阪で育ったこどもたちが「こころ」を語ります。

2部 パネルディスカッション

★1 部のこどもたちの声を受け、わたしたちに何ができるのかを考えます。

ファシリテーター 金光敏さん (特活)コリア NGO センター

パネラー 浅倉拓也さん 朝日新聞社

鵜飼聖子さん こどもひろば

白石素子さん 門真なみはや高校

安田乙世さん NPO 法人おおさかこども多文化センター

日 時 : 2012 年 7 月 16 日(月・祝) 14:00~16:30 (13:30 受付開始)

場 所 : クレオ大阪中央(大阪市立男女共同参画センター) 4階 セミナーホール

大阪市天王寺区上汐 5-6-25

地下鉄谷町線 四天王寺前夕陽ケ丘駅下車、1·2番出口から東へ約 200m

参加費 : 無料 (資料代 500 円を当日お支払いください)

後援 : 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、豊中市教育委員会

(公財)大阪 YWCA、(特活)多文化共生センター大阪、(特活)寝屋川市国際交流協会

(財)守口市国際交流協会、(公財)八尾市国際交流センター

たくさんのご来場 お待ちしています♪

NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 白子

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 高砂堂ビル 8 階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL http://www.osakakodomo.sactown.ip

郵便振替 【記号・番号】OO940-1-272824 (他金融機関からは【店名】O九九(ゼロキュウキュウ) 【店番】099 【預金種目】当座【口座番号】0272824)

加入者名『NPO法人 おおさかこども多文化センター』 (フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター 〕

